**尾瀬・至仏山**

**日時　平成24年7月22日、23日**

**場所　群馬、新潟県**

**参加　山行クラブ、他クラブ合同　18名参加**

**22日（日）**

**尾瀬行きのバスで大清水まで新宿から約3時間50分、11時過ぎに到着。11時15分尾瀬沼を目指して登山開始、天候は生憎の曇り空で暑さは感じられない。歩き始めて1時間後に丁度昼食時間で、小屋の近くでいたのが幸いしたが、突然大粒の雨が降り始めた。かなり激しい雨であったが約10分後に小雨となり間もなく止んだ。しかし雨模様は続き、雨具を装着したり脱いだりの行動であった。おまけに木道は滑りやすく、自分も滑りを何回も味わったが、幸いに転倒は免れた。メンバーのうちかなりの人数が転倒し、打撲や擦り傷をつくった。尾瀬沼山荘に歩き始めてから3時間後の14時に到着。相変わらず天候は不純。雲の合間を縫って燧ケ岳が頭を見せた。15時過ぎに沼尻に到着、ニッコウキスゲが姿を見せ始めたが、今年は不作でほとんど姿が見られない。鹿に新芽を食べられたことが起因しているらしい。しばらく休息後、見晴台目指して進んだ。白砂峠を越え、木道を黙々と進む。この付近はほぼ平らな木道が続く。17時にやっと見晴の山小屋に到着。桧枝岐山荘に宿泊、20時過ぎに蛍がみられるということで全員夕食後蛍散策。小ぶりな平家蛍が乱舞していた。何十年ぶりに会えた蛍の姿であった。本日の行程は約15kmで6時間あまりの時間を要した。**

**23日**

**前日山小屋の主人に至仏山の行程を相談したところ、計画の時間ではとても登山できないことが判り、出発時間を2時間切り上げ、午前4時半とした。従って3時半に起床し、出発に準備を始めた。朝方の天候は良好、薄靄のかかる木道を出発した。全面に目指す**

**至仏山を見ながら8名が出発した。残りのメンバー10名は、尾瀬ヶ原探索メンバーで出発は7時であった。先発組の我々は、山小屋での朝食は不可能であったので、前日弁当を用意してもらいそれを持参で出発した。30分足らずで竜宮十字路に到着、この時点では天候は良好で、頂上からのパノラマショーを期待できた。早朝の尾瀬ヶ原は爽快で朝靄の立ち込める周りの山々が幻想的であった。正面に至仏山、後面に燧ケ岳が見え隠れして、朝日は丁度燧ケ岳の右からから登り始めた。とても爽快であった。高山植物も見られ、トキ草、サワラン、ワタスゲ、モウセンゴケ等々が一面に生えていた。6:20頃に山の鼻に到着、そこで宿泊している１人のメンバーと合流し9名で登山開始。6:45登り始め、その頃はそれほど天候は悪くはなく、しばらく登ると尾瀬ヶ原が眼下に見ることが出来た。そのうちに**

**天候が怪しくなり、霧雨も降り始めるようになった。雨具を装着するまでもないくらいであったので雨具の装着はせず、ザックカバーのみ装着した。登り始めて1時間半で中間点を過ぎ、泥濘と、滑りやすい蛇紋岩の岩を慎重に登った。そこからしばらく同様の山道を登るとお花畑にたどり着く。あいにくの霧雨模様の天候で、薄靄のかかる状態であったが、一面に咲き乱れている高山植物を見て疲れている肉体と気持ちに活力を与えてくれた。お花畑を過ぎるとなだらかな木道が続き、もう頂上は間近と感じられるようになる。9:50至仏山の頂上に到着、頂上は白色の世界で視界は全くなし。残念、頂上からの大パノラマショーを期待したのであるが誠に残念であった。朝食とも昼食とも区別のつかない食事をとり10:15に下山開始、途中少し天候の回復の兆しがみられ、小至仏の頂上付近から振り返ると至仏山がきれいに見ることが出来た。悪路の下山道が続き12:45に鳩待峠に下山した。約3時間の下山行程であった。鳩待峠付近は天候が良く、多くの登山客で賑わっていた。タクシーで戸倉までおり下り、そこで入浴、近くの「健太」という名前の食事処で別行動チームと合流し反省会を行った。16:20発の新宿行きのバスに乗車し帰路の途についた。**

**以上**